

【未来】が、 さまざまな【協】と【共】を 円滑にします。

BIM Collaborate Proで【未来】を味方に。



私たちの世界は未来に向けて、さまざまな変化を遂げていくでしょう。つまり、未来は不確実な要素に満ちています。それでも未来を生きていく以上、より良い世界を構築していきたいと願うのです。私たちは未来に向けて、初めての挑戦を重ねていきましょう。数々の失敗や成功を経て、そのすべてから学ぶでしょう。そして効率化が進み、新たな働き方へと進化していきます。異なる専門分野間で効果的にコラボレーションし、プロジェクトのライフサイクル全体を通じてシームレスなデータフローを共有しながら、リスクを抑えつつ迅速に業務を進め、質の高い成果を生み出せるようになります。

「デジタル デリバリー」とは、建設業界における未来のプロジェクト手法で、さまざまな新しい要素が含まれます。プロジェクトデータを整理、調整、構築、効率化する方法が進化します。また、ワークフローが効率化し、リアルタイムのコラボレーションデータに基づく意思決定、リスクの低減が実現します。プロジェクトが設計・施工分離方式 (DBB) であっても、官民パートナーシップ (PPP) 方式であっても同様に、こうしたメリットがもたらされます。

未来へ向けてさまざまな業界のプロジェクト デリバリーに変革をもたらすデジタルトランスフォーメーションの基盤となるのが、BIM です。チーム、データ、プロセスがクラウドベースのプラットフォームでひとつにつながることで、プロジェクト手法がスマートかつ効率的になり、優れたデジタル デリバリーが実現します。

BIM Collaborate Pro登場。ここから、新たな未来が広がります。



「クラウドには、複数のチームを統合し、コラボレーション方法を一新する力があります。私たちはチームとしてひとつになり、情報を共有しながらプロジェクトを進めています。水平型チームも垂直型チームも、設計データをリアルタイムで調整し、最新データをクライアントと共有しながらプロジェクトを進めることができます」

Gannett Fleming エンジニアリング テクノロジー マネージャー/David Butts 氏



デジタル デリバリーの3つの効果: 未来のチーム コラボレーション

1) 人々がつながる: パワフルなリアルタイム コラボレーション

共通データ環境 (CDE) にワークフローを構築することで、プロジェクト関係者全員が、一元管理された正確なデータにいつでもアクセス可能になります。リアルタイムに共同設計できるため、プロジェクトのライフサイクル全体を通じて透明性が向上し、手戻りやコストの削減につながります。さまざまに異なる業種、会社、オフィスに属するチームがクラウドでひとつにつながることで、業務が最大限に効率化し、重要な情報やインサイトの損失を回避できます。

2) データがつながる: ビジネスに役立つインサイトをデータから取得

詳細なインサイトを引き出し、データに基づいた確実な意思決定を下すことが可能になります。クラウド ベースの共通データ環境でコラボレーションしながら、プロジェクトのパフォーマンスをしっかりと把握し、潜在的な問題を特定してすばやく解決し、優先順位に沿って日々の業務を効果的に進め、進捗状況を追跡できます。

3) プロセスがつながる: プロジェクト管理能力を強化

プロセスがひとつにつながることで、チームが一元管理されたデータ管理プラットフォームで共通のデータに安全にアクセスでき、プロジェクト管理が大幅に効率的になります。プロジェクト マネージャーはこの共通データ環境で、アクセス制御を行ったり、クラウド上でレビューを行ったりと、プロジェクト データを完全に把握しながら管理できます。

【未来】を駆使したときに、チャンスが生まれます

優れた機会を創出することで、より良い未来への扉が開きます。建設プロジェクトに BIM Collaborate Pro のクラウド コラボレーション ツールと新たなプロジェクト デリバリーを導入することで、チーム、データ プロセスのつながり方に革新がもたらされます。設計と施工のデータをすべてクラウド環境に集約し、関係者全員が同じプラットフォームを利用することで、ワークフローがシンプルになり、プロジェクトの透明性が高まり、正確な情報をリアルタイムで入手することが可能になります。

オートデスクのクラウド コラボレーション ソリューションでは、Revit、Civil 3D、AutoCAD などの主要製品を共通データ環境で連携させて、設計から施工までのプロジェクト ライフサイクル全体をひとつに統合できます。BIM Collaborate Pro で業務が効率化し、成果の質が高まります。その結果、建設業界や個々のビジネスが改善するだけでなく、より良い世界の構築につながります。

